

項番	意見	第2回環境審議会における回答	計画修正 有無	対応(審議会用)
1	5 Rの中でもリデュース、ごみの発生抑制が重要であると考える。（中略）今後、市民にこの点を強く認識してもらう必要がある。認識を強めるために、ゴミダスや広報紙での周知もあるが、これ以外の方法で周知方法を強化すべきであると考えるが、市で考えていることがあれば伺いたい。（高田委員）	高田委員からのご指摘について、市民の方に周知していく方法は重要だと考えている。広報紙やゴミダスなども活用しているが、様々な機会を捉えて周知することが重要である。（中略）こうした取組を今後もしっかりと行っていきたい。（田中課長）	－	項番「1追加」のとおりです。
1追加	5 Rは重要であるが、その5 Rの中でも、リデュース、リユースが大事ではないかということであった。つまり、資源をあまり使わない、ごみにしない、こうしたことが大事で、そういった意識啓発に繋がる施策を進めるべきではないか、また、そうした姿勢を計画の目標や取組の中に記載すべきではないか、というご指摘であったと思う。（田中会長）	減量を中心に、もう少し強い表現ができないか検討させていただく。（田中課長）	無	【計画修正なし】 審議事項3におきまして「リデュース、リユースの取組、意識啓発について、一般廃棄物処理基本計画における追記を検討してはいかがか。」とのご意見をいただきましたので、一般廃棄物処理基本計画における追記を検討いたします。
2	環境学習・環境活動の推進の詳細指標について、（中略）既に目標を達成しているため、目標値を高く設定してはいかがか。小学校や中学校等、学校における環境学習の実施件数は含まれているか。また、学校教育との連携について、記載してはいかがか。（増原委員）	この詳細指標は、環境部で実施している件数で設定している。一方で、53頁の成果指標「環境に関するイベントに参加している人数」では、環境部以外、例えば、上下水道局や農政部局で行うイベント等にも環境に関するものがあるため、こうした情報をきちんと把握するとともに、PRを実施していきたいと考えている。取組の柱2－1の詳細指標としては、従前のままであるが、追加した施策2の成果指標ではこうした意図も含んでおり、幅広く取組を進めていきたい。	有	【計画修正 52 p】 詳細指標の目標値を変更します。 R12年度目標値 （変更前）20件 （変更後）30件 小中学校等の教育機関との連携や、出前講座等も含み目標値を設定しました。
		学校との連携について、ごみに関する授業を出前講座の中で、小学校に対し実施している。また、児童に環境事業センターに来てもらい、ごみの現状や対策の重要性の啓発を行っている。（田中課長）		【計画修正 52 p】 出前講座については、小中学校等との連携に含むため特記せず、（主な取組）のスケジュール表に、『「小中学校等における学習や」おだわら市民学校との連携』として明記します。
2追加	「出前講座」等のキーワードを主な取組等に記載するとわかりやすいのではないか。ご検討いただきたい。			
3	ごみの適正処理の詳細指標について、排ガスとあるが、「焼却施設」と追記してはいかがか。（田中会長）		有	【計画修正 60 P】 指標に「焼却施設の」を追記します。
4	詳細指標の記載方法について、「排ガスが大気排出基準値以下に維持されている割合」としているが、根拠説明部分では、「基準値を超えないこと」と記載方法が異なる理由はなにか。（田中会長）	求められていることは、基準値以下に維持されていることなので、説明文にある「基準値を超えないこと」部分を「以下に維持されていること」と修正したい。（石塚所長）	有	【計画修正 60 P】 詳細指標の説明部分を「以下に維持されていること」と修正します。

項番	意見	第2回環境審議会における回答	計画修正 有無	対応(審議会用)
5	森里川海の保全・活用について、詳細指標が多い。70頁にある主な取組が幅広く、それぞれを図るために設定していると考えられる。(中略)それぞれの取組内容かとは思いますが、指標数が多いのではないか。(田中会長)	ご指摘を踏まえ、今後計画を策定する際は検討させていただきたい。 (田中課長)	無	【計画修正なし】 計画の見直しのため計画の継続性という観点から、取組の進捗状況にあわせ、指標追加を行う場合は、従前の指標を削除せず追加する方針で、今回の見直し作業を行っています。 当日回答のとおり、次期計画策定時には、指標数については検討していきたいと思います。
6	市民アンケートをみると、意識と行動にギャップが伺える。(中略)おそらく、感情を行動へ転換する部分にギャップがあるのではないか。そうした点を計画や具体的な取組にいれると更によくなるのではないか。(杉崎委員)	・様々な参加の機会が得られるように、事業PRを実施していく旨を、環境学習・環境活動の推進に追記させていただきたい。(田中課長) ・マイクロプラスチック対策に繋がる意識啓発も含めて、自治会清掃を実施していただくよう働きかけていきたい。(瀬戸課長)	有	【計画修正 52p】 (取組の柱) 2-1 環境学習・環境活動の推進 の内容を次のとおり修正します。 「市民の環境意識の向上を目指した環境学習や環境に関する様々な取組を企業や関係団体との連携により実施するとともに、『様々な参加の機会に繋がるよう』小田原の豊かな自然環境の魅力や環境保全の取組を広く『周知し、』森里川海を守り育てていくための体制づくりを進めます。」
6 関連	意識と実践が結びつかないという点に関して、もう少しクリーンキャンペーンなどのイベントの宣伝を熱心に行ってはどうか。(中略)周辺に落ちているプラごみを拾っていただくことで、側溝を通じて川や海へいくことも防ぐことができる。参加しやすい身近な行事等で、環境に貢献したい、という意識が実践に結びつくというのではないか。(三島委員)			
6 追加	身の回りで毎週や月に1度等こまめに回数を重ねていくことも重要ではないかという趣旨かと思う。施策2の成果指標にこうした細かいものも含めることができると良いが、なにを対象にするか想定もあると思うので、身近なきめこまやかな対応も促せるよう、できるとよいのではないか。(田中会長)			
7	取組の柱5-2森里川海の保全活用に関して、良い自然環境があるので、自然環境ジャンルだけではなく、稼ぐ自然、例えば移住促進に活用する等、他ジャンルにも連携する、戦略的な取組もあるとよいのではないか。(杉崎委員)	そうした取組は重要であると認識しており、しっかりと進めて参りたい。50頁、 取組の柱1-1環境資源の魅力発信において、森里川海の恵みによる地域資源を生かしたコンテンツを創るとともに推進していく取組を、地域循環共生圏の構築の取組として位置づけており、この中でも進めていきたい。(田中課長)	無	【計画修正なし】 (取組の柱) 1-1 環境資源の魅力発信において、(主な取組)に記載している、観光、農業、林業、漁業等との連携によるPR等の取組の中で、積極的に取り組んで参ります。

項番	意見	第2回環境審議会における回答	計画修正 有無	対応(審議会用)
8	施策2の成果指標「環境に関するイベントに参加している人の割合」「環境に関するイベントに参加している人数」について、上の指標は、市民アンケートベースで、下の指標は、実数であり測定の方法が異なり、一致しないことは理解できるが、アンケートで9%上昇を目指す数値に対し、参加している人数における目標人数が小さいので、考え方を伺いたい。 (大河内委員)	現在集計しているイベント等が約30あるが、定員設定があるものや、自治会で実施する河川清掃事業等、すでに多くの方が参加しているものを含んでおり、こうしたものは、そこまで数値の伸びを見込めないと判断し、1万5千人と設定した。(田中課長)	無	【計画修正なし】 「環境に関するイベントに参加している人数」については、市で実施、把握している講座やイベントの参加実数のため、当日回答のとおりの目標としております。 「環境に関するイベントに参加している人の割合」については、施策2に追記する、多様な参加の機会に繋がる周知等を通し、市のイベント等に限らない、増加を目指していきたいと考えております。
9	56頁、取組の柱3-1に関して、複数指標で評価を行っている。電気自動車普及台数に加え、長期優良住宅認定住宅等の認定数と再エネ電力使用事業所登録制度における達成事業所数について、実績値を踏まえ目標値を設定していると思われるが、想定は何件程あるのか(大河内委員)	電気自動車普及台数に関して、現在、小田原市で登録されている自動車の登録台数が約9万台で推移しており、基本的にはこの推移を維持していくものと仮定し、2030年度には、その10%を電気自動車に切り替えていく想定で、9,000台と設定している。(山口副部長)	－	項番「9追加①」のとおりです。
		長期優良住宅については、ここ数年の実際の認定数の平均値で、このままの割合で増加した場合の累計を設定している。現在、年間250～260件認定されており、その推移で増加すると2,300件程となると想定している。(山口副部長)	－	項番「9追加②」のとおりです。
		再エネ電力を使用している事業所数については、今年度から登録制度を設け、実施している。実績値としている令和6年度は、事業が始まっていなかったため、0事業所となっているが、今年度は10件以上認定している。脱炭素先行地域の事業の中で、商店街については、全て再エネ電力に切り替えを行う計画としており、大体120～130件ある。その他のエリアにおいても、達成事業所が出ているため、これを含めて想定し、200事業所を設定している。(山口副部長)	無	当日説明のとおりです。

項番	意見	第2回環境審議会における回答	計画修正 有無	対応(審議会用)
9追加①	指標のアスタリスクの着く位置は、9,000台の部分につくということでしょうか。	仰る通りである。小田原市に登録されている自動車の予想登録台数の10%が目標値となっている、とわかるように記載方法は次回までに改めさせていただく。(山口副部長)	有	【計画修正 54 p】 ご指摘をいただいた部分に※を追加するとともに、補足を追記します。
9追加②	長期優良住宅認定数に関しては、これまでの実績で設定されたとのことだが、本来それを上昇させていかなければならないのではないか。ご検討いただければと思う。(大河内委員)	新築棟数の割合や、今後の上昇分も加味すべきというご指摘かと思うので、もう一度検討させていただく。(山口副部長)	有	【計画修正 54 p】 2030年度には新築住宅へZEH水準への適合義務が課されることから、今後長期優良住宅等の認定数は増加すると考えられることに加え、本市においても補助金の交付のほか、省エネ住宅の普及啓発を推進していきます。これらを加味しまして、目標値を2,800件に上方修正します。
10	全体に渡る話になるが、成果指標や詳細指標で具体的な行動や行動に関する数を設定しており、指標としてはわかりやすい。同時に、取組で読むと、概説的な記載となっている。指標と取組内容が連動している、この取組を行うことで指標が管理できる、測定できるという関連性をきちんと認識された方が良いと思う。可能であれば取組をもう少し具体的に記載されてもいいと思うのでご検討いただきたい。(田中会長)		有	【計画修正あり p 47】 主な取組は、個別事業ではなく、各取組の方針を表すような取組を記載しています。具体的な事業については、資料編の「主な取組における事業一覧」に記載しておりますので【計画の体系図】下部にこの旨を追記します。 各指標と取組内容の関連性については、見直し作業の中で確認していますが、次期計画策定時は、そうした関連性がわかる記載を検討していきます。
11	施策2の成果指標「環境に関するイベントに参加している人数」について、自治会で月1度清掃活動を行っており、参加人数を市に提出している。こうした人数も追加してはいかがか。(高田委員)		無	【計画修正なし】 施策2の追加した指標は、従前の指標に対し、客観的な指標とするために、市として定量的に把握できるものを集計しています。 自治会における清掃活動については(取組の柱)6-2詳細指標における「美化清掃実施回数」にて指標の一部とさせていただいております。
12	施策1 地域循環共生圏の構築の(目標)部分、「環境と経済の循環創出」については、41 pにある地域循環共生圏の構築の説明と同様に社会も含め統合的に向上する点を記載すべきではないか。(奥委員)	施策1の目標の記述を社会を含め追記させていただく。(田中課長)	有	【計画修正あり p 42, 48】 (目標) 地域循環共生圏の構築を目指し、課題の価値化や「環境・経済・社会の統合的な向上を図ります。」